

認知症をチームで支える

支援の手順



※認知症の有無、原因疾患、重症度を見極める診断

認知症初期集中支援チーム

市包括支援センターでは、看護師や介護福祉士等の保健福祉に関する有資格者や、認知症サポーターなどで構成する「認知症初期集中支援チーム」を設置しています。

このチームでは、認知症が疑われる人やその家族の初期支援を包括的・集中的に行い、次のように自立生活をサポートします。

まずはご相談を

チームが関わることで、認知症の症状の悪化による本人・家族の負担を軽減することや、受診の遅れを防ぐなどの効果が期待されますが、状況を把握しなければ支援につなげることはできません。

「認知症かも知れないけど、相談先が分からない」や「介護サービスの利用方法が分からない」等でお困りの場合は、市地域包括支援センターにお気軽にご相談ください。



▲認知症初期集中支援チームの久保園まさ子さん（右）、大山真美さん（中央）、認知症地域支援推進員の古里広美さん（左）

また、今年度から「認知症地域支援推進員」を新たに配置。介護事業所の相談窓口「オレンジのまど」と連携して、認知症支援をさらに強化していきます。

市地域包括支援センターの相談窓口一覧

施設名	所在地	電話番号
市地域包括支援センター	吾平町麓 51-1	0994-45-6969
寿8丁目サブセンター (ヴィラかのや)	寿8丁目 21-2	0994-40-3751
寿2丁目サブセンター (朋愛園)	寿2丁目 2-1	0994-41-2431
大浦サブセンター (悠々)	大浦町 14028-6	0994-40-9855
花岡サブセンター (花岡の里)	花岡町 3979-1	0994-46-5151
大始良サブセンター (慈恵園)	大始良町 226	0994-48-2800
下祇川サブセンター (鹿屋長寿園)	下祇川町 1800	0994-40-8333
輝北サブセンター (みどりの園)	輝北町市成 1177	099-485-1185
串良サブセンター (以和貴苑)	串良町下小原 3103-2	0994-62-8881
吾平サブセンター (陵幸園)	吾平町麓 3811-2	0994-58-5900

認知症介護に特化した介護保険サービス

- グループホーム
認知症の人が共同生活をする住宅で、介護スタッフによる食事、入浴などの支援が受けられます。
- 認知症対応型デイサービス
介護施設に通い、食事、入浴などの支援や、レクリエーション・機能訓練などを日帰りで行う、認知症の人専門のデイサービスです。



▲市内の介護サービス事業所一覧

普及啓発活動等の実施

「行方不明者捜索訓練」の実施や「認知症セミナー」の開催による普及

「鹿屋市認知症キャラバン・メイト連絡会」は市内の介護事業所に勤務する職員で構成され、会員数は145人(平成31年4月1日現在)。年間30回以上の講座を開催し、毎年1,000人以上の認知症サポーターを養成しています。

「大隅地区認知症セミナー」を開催します！

- 日時 6月29日(土) 13:00～15:20
- 場所 リナシティかのや3階ホール
- 講師 丹野 智文氏 (44歳)
- ※39歳のときに「若年性アルツハイマー型認知症」と診断される
- ※参加を希望する場合は、事前にご連絡ください。
- 問 グループホームいきいき館 (田中)
Tel 0994-42-7112

鹿屋市認知症キャラバン・メイト連絡会
田中 穂積 会長



サポーター養成で支える

啓発なども私たちの重要な任務です。また、認知症を患うと判断能力が低下し、消費生活に関する被害を受けやすい傾向があることから、今年「消費生活に関する高齢者のトラブル」について講演の開催も予定しています。

認知症の理解と関心を

認知症は、不安や混乱、パニックや恐怖といった感情を引き起こします。その心に寄り添うために、市民一人ひとりが他人事ではなく自分のことと考え、認知症に対する理解と関心を持ってもらいたいです。

そして、この取り組みが地域全体に広がることで、誰もが安心して暮らせる環境づくりにつながっていくと思います。

認知症を地域で支える

西祇川町内会
福永 勝 会長



町内会で支える

行方不明者捜索訓練

昨年11月に「行方不明者捜索訓練」を行いました。町内会単位で訓練を行うのは市内で初めてのこと。

私が会長になってから今年で10年目になりますが、その間、高齢者の行方不明による対策本部の設置が2度あったことから、日頃の訓練の重要性を感じて実施を決めました。

当日は、町内会の住民やキャラバンメイトの方々など総勢100人が参加。対策本部の設置場所となる集落センターから半径2km以内のエリア内を5か所に分けて訓練を実施しました。

事前準備から当日の運営まで、とても大変でしたが、徘徊をしている人に対する声掛けの仕方や保護した後の対応など、地域全体で学ぶことができました。先月は、地域住民から通報を受け、包括支援センターの職員に保護してもらった事案がありました。訓練の手応えを感じています。

ふれあいサロン

「ふれあいサロン」は、高齢者クラブの方々が中心となって開催しています。開催は月に1度ですが、運動やゲーム、料理や食事など毎回約40人が参加する人気のサロンです。ただ楽しむだけでなく、安否確認ができたり、運動や会話をすることで脳のトレーニングにもなります。

日頃の連携が大事

町内会の班長や地域包括支援センター、近隣の介護事業所などと密に連絡を取り合うよう心掛けています。普段から連携ができていれば、いざというときの行動も迅速になりますし、関係機関の助けをもらいやすくなるので、日頃の連携が一番重要だと思います。



▲4月の「ふれあいサロン」ではお好み焼きを調理。笑顔で食事や会話を楽しんでおり、賑やかな様子でした。